

EMERGENCY WATCH!

疾患頻度

1. インフルエンザ (確定：A型671人、B型6人)	823人
2. 急性上気道炎・感冒	557人
3. 感染性胃腸炎	212人
4. 咽頭炎	122人
5. 気管支喘息・喘息性気管支炎	90人

神戸こども初期急病センター

2017年2月受診者数 2348人

No.75
Mar.2017

近年に、例をみない寒波で、山陰地方では記録的な積雪が記録されました。兵庫県内ではインフルエンザが一段落つきやや減少してきましたが、まだまだ油断はできません。季節の変わり目や、突然寒くなると咳嗽で受診されるお子さんが多いため、今回のEWでは咳嗽をとりあげようと思います。

Q1: 咳の原因は？

原因としてはかぜ症候群、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、マイコプラズマなどの感染症によるものや、喘息、咳喘息(咳症状が主体となる喘息)という病気もあり様々です。アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎(蓄膿症といわれます)では鼻汁の垂れ込みが咳の原因になることもあります。また、気をつけなければいけないのは、お子さんの中には異物(ピーナッツ)を誤飲することで長引く咳嗽をおこし、実際に治療抵抗性の喘息として管理されている症例も報告されています。これらが一つあるいは複数の原因によって起こりますので、それぞれの背景にある疾患の治療が重要となります。

Q2: 咳のお薬は？

薬ですっきりおさまらないことも咳嗽の治療における難しいところです。小児科で処方される薬としては、鎮咳剤や去痰剤が一般的にはよく使用されています。ただし、いくら鎮咳剤をがんばって飲んでも翌日から、ピタッと咳がなくなるものではありません。また、過去には蜂蜜が鎮咳剤と効果が変わらないとする論文もあるので、年長児などではそれを投与することも有用とされています(なお、2歳未満では摂取しないようにしてください)。

Q3: それでは対処法は？

多くは時間とともに改善しますので、特別な治療を必要としません。睡眠の妨げになる、あるいは咳き込んで嘔吐が続くなどがない場合には、十分な加湿や鼻の吸引のみで改善していくことが多いです。昔に比べて都会では大きく湿度が低下していますので、加湿器や部屋干しを利用してお子さんの部屋内はしっかり加湿するようにしましょう。

Q4: 受診のタイミングは？

咳は夜激しくなることが多く、夜間に救急を受診されることも多い症状の一つです。多くは日中に受診していただければよいですが、注意したいものとして顔色不良、呼吸困難感を伴う場合、ゼコゼコ、ゼーゼーといった喘鳴を伴う場合、咳き込み嘔吐がおさまらない場合などには受診するほうがよいと考えます。また冬場に多いクループという病気ではオットセイのような咳がでると言われています。いつもと咳の様子が違う場合には一度、小児科や急病センターに相談してみてもいいでしょうか？